

異国の丘で、生と死を見た。



異国の丘 (2004年)

宮崎 静夫 展 | 鎮魂を祈る |

2020.12/1(火)～2021.2/21(日)

9:30～17:30 (入館は17:00まで)

- 前期 2020.12/1(火)～2021.1/11(月・祝)
- 後期 2021.1/13(水)～2021.2/21(日)
(「異国の丘」以外はすべて入替えを行います)
- 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)
年末年始 12/28(月)～1/4(月)

平和祈念展示資料館

新宿住友ビル33階

東京都新宿区西新宿2-6-1 Tel:03-5323-8709

<https://www.heiwakinen.go.jp>

   @heiwakinen

入館
無料

宮崎 静夫 展 | 鎮魂を祈る |

今回の企画展では、満州(現中国東北部)で亡くなった満蒙開拓青少年義勇軍の仲間や、シベリア抑留で命を落とした戦友たちへの“鎮魂の想い”を描いた宮崎静夫(1927年~2015年)の作品をご紹介します。宮崎は14歳で満蒙開拓青少年義勇軍に志願し、満州に渡り、17歳の時に終戦を迎えますが、その後4年間シベリアに抑留され、1949年8月に帰国を果たします。その間、多くの友の死を見てきました。生きて還った宮崎は、洋画家海老原喜之助の下で絵画を学びます。1970年の夏からは〈死者のために〉というシリーズを描き始めます。それは、シベリアや満州で亡くなった者への悼みや鎮魂の願いを描くことを決意したからです。〈死者のために〉の表現は人物、鳥、花、風景、静物など極めて写実的ですが、情景や場面、出来事を具体的に描いているわけではありません。戦闘や残虐な場面はなく、また声高に戦争の悲惨さを訴えるようなものではありませんが、若くして不条理な死に直面した者への鎮魂の想いや、残された老婆や老爺の悲しみやむなしさが溢れています。そこには静かな悔恨の想いと平和への願いが横たわっているのです。



①



②



③



④

① 受難(2003年) ② 墓を訪う(1970年)
③ 旅(1988年) ④ 彷徨 さまよう(2005年)

宮崎静夫 年譜

| | |
|---------------|---------------------|
| 1927(昭和2)年 | 熊本県小国町に生まれる |
| 1942(昭和17)年 | 満蒙開拓青少年義勇軍に志願(14歳) |
| 1945(昭和20)年5月 | 関東軍に入隊(17歳) |
| 10月 | 武装解除後、シベリアに4年間抑留される |
| 1949(昭和24)年8月 | 舞鶴港に引揚げ |
| 1957(昭和32)年 | 洋画家海老原喜之助に師事 |
| 1968(昭和43)年 | 約1年間、渡欧 |
| 1970(昭和45)年 | 〈死者のために〉シリーズを描き始める |
| 2008(平成20)年 | 熊本県芸術功労者に選ばれる |
| 2010(平成22)年 | 第69回西日本文化賞受賞 |
| 2015(平成27)年 | 死去、享年87 |

宮崎静夫作品は 九段ギャラリーでも展示します

新宿だけでなく、九段下にも足をお運びください。

展示期間:2021年2月10日(水)~2021年2月16日(火)

九段生涯学習館2階 九段ギャラリー特別展示 東京都千代田区九段南1-5-10

平和祈念展示資料館(総務省委託)

- 都営大江戸線〈都庁前〉駅 A6出口より徒歩約1分
- 東京メトロ丸ノ内線〈西新宿〉駅より徒歩約5分
- JR線、小田急線、京王線〈新宿〉駅西口より徒歩約10分

